

第5次高松市病院事業経営健全化計画【令和6年度～令和9年度】（案）についてのパブリックコメント実施結果

本市では、令和6年2月2日から3月4日までの期間、「第5次高松市病院事業経営健全化計画（案）」についてのパブリックコメントを実施しました。いただきました御意見の要旨及びそれに対する本市の考え方を、以下のとおりまとめましたので、公表いたします。

1 意見総数 5件（1人）

2 いただいた御意見の要旨及びそれに対する本市の考え方

※提出いただいた御意見は、趣旨を変えない範囲で、簡素化若しくは文言等の調整をしています。

No.	御意見（要旨）	市の考え方
1	〈みんなの病院について〉 健全化計画の基本には「市民並びに来院者（通院患者、新規患者、入院患者）に寄り添う診療と看護の実現」ということを強調されるべき。 診療に際しては、丁寧な疾病状況の説明、患者が留意すべき生活の具体的提言など診療活動全体が来院者の立場に立った気風を確立すること。	みんなの病院では、「まごころのある医療人の育成」を基本方針の1つに掲げ、患者に寄り添う診療と看護に努めております。 具体的な取組といたしましては、患者のニーズを把握し、良質な医療の提供のために、「患者満足度調査」を毎年実施しているほか、病院への提言・意見を自由に記載できるアンケートボックスを設置し、患者様の意見をお伺いしているところです。 寄せられた意見や調査結果につきましては、院内の複数職員で構成する「患者サービス向上委員会」で検討の上、必要に応じ、業務改善を実施するなど、今後の病院運営にいかしてまいります。 また、院内の全職員を対象とした、接遇研修を年4回開催するなど、医療サービスの向上にも努めているところです。 今後におきましても、病院を利用いただいている方に対し、常に親切・丁寧な対応に心掛けるよう、各種取組を講じる中で、患者サービスの向上に、より一層努めてまいりたいと存じます。

No.	御意見（要旨）	市の考え方
2	<みんなの病院について> 病院の持っている情報（新しい診療技術や治療の実績、新規導入の診療機器など）を新聞や高松市広報誌に積極的に投稿し PR に努める。	みんなの病院では、病院の診療機能や医療サービス等の情報について、病院ホームページはもとより、Facebook などの SNS を随時更新するとともに、「広報 高松」に年 4 回、医療に関するコラムを掲載するなど、情報発信に努めているところでございます。 御提案の趣旨も踏まえ、今後、各種媒体を通じて、より積極的な広報活動に取り組んでまいりたいと存じます。
3	<みんなの病院について> 各種の出前講座を用意し、周辺地域の保健活動と連携し、みんなの病院の輪を広げる。	みんなの病院では、毎年度「市政出前ふれあいトーク」や「やさしく学べる健康講座」を実施し、地域の皆様からご好評をいただいているところでございます。 講座等の内容は、医師による疾病関連、看護師による日常生活援助関連、理学療法士による介護予防関連など多岐にわたっており、地域の保健活動の一助となっているものと存じております。 今後におきましても、これらの講座等を継続的に実施するなど、地域の保健活動との連携に努めてまいりたいと存じます。

No.	御意見（要旨）	市の考え方
4	<みんなの病院について> 病院内の広報（診療室前のテレビの内容や壁面新聞用掲示板）は常に更新するように努めるとともに、再来受付機の円滑な運用で来院者の負担を極力軽減するとともに、常に病院が生き生きと躍動している雰囲気づくりに努める。	みんなの病院の病院内広報につきましては、来院患者様に向けて、適時適切に情報をお届けできるよう、各担当部署において、掲載する内容や時期の調整などの管理を行っております。引き続き、適切な情報更新に努めてまいりたいと存じております。 また、再来受付機につきましては、今後、移設や分かりやすい案内表示の追加を予定しているところでございます。加えて、受付窓口の運用改善等を行うことによりまして、窓口の混雑解消や待ち時間の短縮を図り、患者様の満足度向上につなげてまいりたいと存じます。
5	<塩江分院について> 地域の特性から訪問診療・看護は残しつつも、近い将来には内科診療に特化すべきで他科目は、みんなの病院に統合すべきだと考えます。このため、今次経営健全化計画の中では、その目標年次を明記する。（市町合併から相当数の年月が経過している。）	塩江分院は施設の老朽化が著しく、現在整備中である附属医療施設へ移行します。その整備計画の中で、診療科目は、内科、整形外科、リハビリテーション科、歯科の4科を基本として整備することとなっております。 高齢化率が50％と非常に高い、現在の塩江地域においては、住民の健康維持も、当院の重要な役割であり、そのためには、どの診療科も、住民ニーズの高い必要な診療科であると考えております。 今後、附属医療施設整備後の診療科目につきましては、住民のニーズを見極めつつ、診療科目の検討を行ってまいりたいと存じます。